

新・東大阪病院 手術室のご案内

10月3日より、新病院での通常診療が始まりました。

移転に先立ち開催しました内覧会にはたくさんの先生方、医療従事者の方々にお越し頂き、誠にありがとうございました。

今号では、内覧会でもご覧いただきました手術室の機能や、当院で行っております手術についてご紹介させていただきます。

● 手術室

現在、当院では整形外科、外科、透析科で年間約700件の手術を行っております。それらの手術をさらに充実させる為、手術室全体のスペースを広くしました。スタッフがスムーズに移動できる快適な環境になっています。



第1手術室



第2手術室

手術室は2部屋あり、室内色が第1手術室はブルー、第2手術室がオレンジと色分けしてあります。空気洗浄度は2部屋ともに洗浄レベルの高い、クラス1000です。

<設備概要>

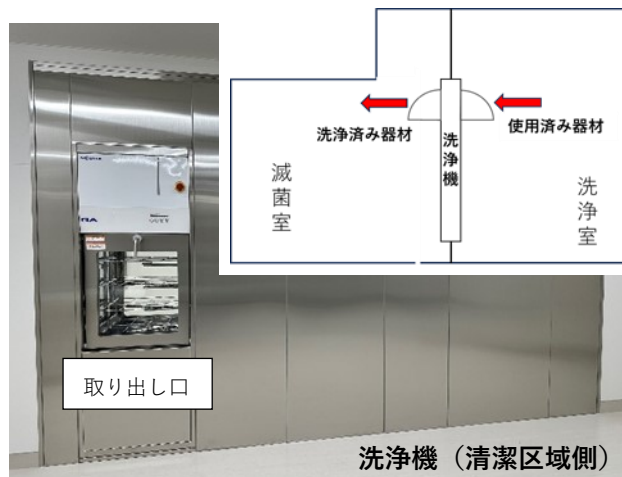
- ・手術診療科：整形外科、外科、透析科
- ・手術室数：2室（バイオフィットルーム）
- ・空気洗浄度：クラス1000
- ・年間手術症例：約700件
- ・無停電電源装置設置



无影灯は、TRUMPF社のLEDマルチ・レンズ・マトリックス採用のTurLight5000シリーズで、高いコントラストの投影や自動照度調整ができます。

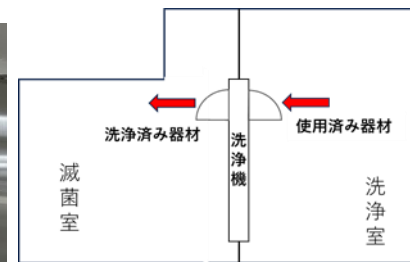
● 滅菌・洗浄室

滅菌室や洗浄室は院内での手術や検査、処置に使用する医療器材を用途に応じた適切な洗浄や消毒、滅菌、供給を行う部屋になります。こちらも拡充し、今までよりも機能的になりました。当院の手術室周辺は清潔区域と非清潔区域が確立されております。清潔区域の滅菌室と非清潔区域の洗浄室の間は、大きな洗浄機で仕切られ、滅菌室側と洗浄室側の両側に取り出し口が付いております。使用済み器材を洗浄室側から入れ、洗浄が終われば滅菌室側から取り出すことができます。導線に無駄がない仕様になっております。滅菌装置はプラズマ滅菌、高圧蒸気滅菌の機械を備えております。



取り出し口

洗浄機（清潔区域側）



● 当院で行っている手術

当院では、骨折全般（上肢から下肢）、人工関節置換術(股・膝)、膝関節鏡、腹腔鏡下胆嚢摘出術、鼠経ヘルニア等の手術をしております。

その中で多くを占める整形外科の骨折症例に対し、常時インプラントと器具を滅菌して準備しており、夜間緊急入院された患者さんを翌日に手術対応ができるよう備えています。

そして、でき得る限り低侵襲手術を行っております。

骨折の手術は、骨折した部位を元に戻す整復と、骨折部位が再びずれないようにする固定を同時に行なう必要があります。大きく切開すると整復も固定もやりやすくなりますが、傷口が大きくなります。傷口を小さくすると、整復と固定の両方を安定させることは高い技術が必要になります。当院では低侵襲でありながら整復位を保つことと固定の両方を叶える低侵襲手術を実施しています。



事例①



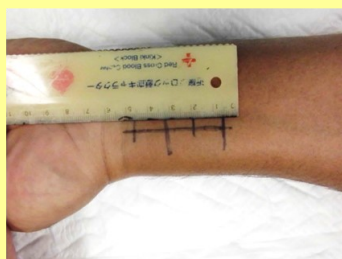
事例②

一般的な手術法の場合



皮切 50mm

方形回内筋切離



50mm

切離

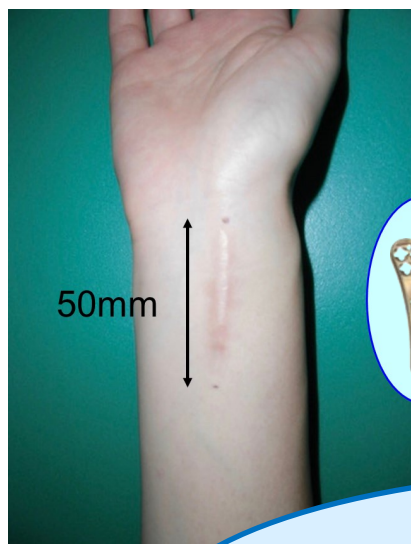


当院

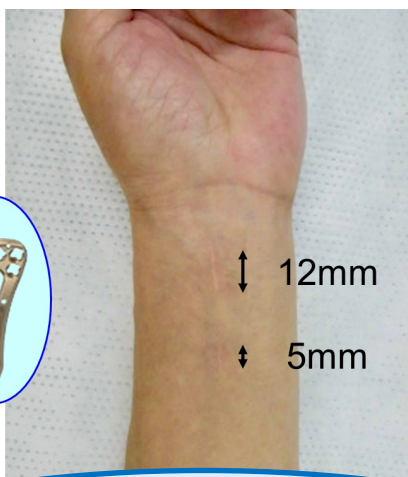


12mm + 5mm = 17mm

温存



50mm



12mm

5mm

低侵襲手術には次のようなメリットがあります。

- ・侵襲が少ない（＝体を傷つけることが少ない）
- ・皮切が最小限のため、傷の治りが良い
- ・手術時間が短縮できる
- ・感染率が減少する

新病院では、ご紹介させて頂いた新しい手術室にてより安全に、患者さんに寄り添った低侵襲でリスクの少ない手術を実施していきますので、これからもご紹介をよろしくお願いいたします。



整形外科部長
中島 保典 医師